



# だから！宮大農学部

農学部だからできること、農学部学生だからできたこと。宮崎大学農学部学生のユニークな取り組みを紹介します。

## ●Be-Corns! (ベーコンズ) プロジェクト

Be-Corns! (ベーコンズ) プロジェクトは「豚を飼育し、それを肉として加工し、そして食べる」という生産から消費までの一連の流れを行うことで、生産者の苦労や思いを知り、食の大切さを消費者に伝えたいと、2013年に農学部畜産草地科学科の学生を中心に結成されました。

養豚農家に出向いて話を聞き、食肉加工センターで加工の様子を見学するなど畜産現場を学ぶ一方、具体的な計画を練り、活動状況をSNSやウェブサイトで発信しました。

2014年9月に子豚2匹を農学部内の畜舎で飼ひ始め、実行錯誤を繰り返しながら約3ヶ月間大切に育てました。豚を加工業者に搬入し、大きな肉の塊となって帰ってきた際は複雑な思いでしたが、実際に食べてみると「おいしい」と感じたそうです。それには大切に育てたからこそ、きちんとおいしく食べてあげたい、という思いもあったようです。今後活動は後輩達に引き継がれ、食の大切さを伝える試みは続けられています。



## ●海外研修でグローバル体験

海洋生物環境学科では、グローバル人材育成の一環として、2012年から学生の海外派遣を実施しており、2014年度もタイのプリンス・オブ・ソンクラ大学と韓国の釜慶大学校に学生を派遣しました。それぞれの訪問先では海洋関連施設の見学や、フィールドトリップなどを行い最新の海洋研究分野に触れたほか、派遣先大学での学術セミナーに参加し、現地の学生とともにそれぞれの研究分野について英語で発表を

行いました。事前英語学習での入念なトレーニングにより宮崎大学の学生たちは皆見事に発表を行い、特に韓国に派遣された海洋生物環境学科4年の石丸真美さんは、ベストプレゼンテーション賞を受賞しました。



## ●卒業研究成果を国際誌に発表!

植物生産環境科学科では、3年生前期から研究室に配属され、実験・フィールドワーク・論文作成に関する指導を受けて卒業研究に取り組んでいます。その結果、植物生理学研究室4年生の多田朱里さんが、卒業研究成果の一部をFrontiers in Plant Science誌に筆頭著者で論文を発表しました。学部学生を筆頭著者とする論文が国際誌に掲載されるのは、非常にまれなことです。また、同研究室の上原晋さんもJournal of Experimental Botany誌に共著者の論文を発表しています。さらに、果樹園芸学研究室が行う「ヒュウガナツ」の研究は、文部科学省・科学研究費補助金の大型プロジェクトである「若手研究A」に採択されました。この研究では、種が少ないヒュウガナツ品種の「種ができていくメカニズム」の解明と、そのメカニズムを応用した新たな種無しヒュウガナツの育成を目指しています。



## ●学生の手で講演会を企画・運営

2014年6月10日に、ケアで獣医師として働きながらアフリカゾウの絶滅を阻止する活動をしている滝田明日香さんの講演会「アフリカ象のいない地球」が行われました。会場が満席になるほどの参加者が学内外から集まり、講演は大変好評でした。

この講演会は獣医学科6年生の伊藤綾夏さんが企画、運営を主に一人で行いました。伊藤さんはアフリカの社会問題や野生動物の現状についての講演会を宮崎大学でも開催したいと考えており、滝田さんのトークイベントの開催者募集を知って講演の交渉を行いました。様々な媒体での宣伝活動にも励み、講演を成功に導きました。



## ●学科のサポートで公務員試験に11名合格

森林緑地環境科学科では2014年度の公務員採用試験で、卒業生48名のうち、11名が合格を果たし、2013年度と合わせると22名の卒業生が公務員として活躍しています。

同学科では早期の就職面談や、現役公務員の卒業生による説明会の開催、教員による試験情報の積極的な提示など、

様々なサポートを行っています。

学科カリキュラムは林業、農業土木分野いずれの専門試験にも対応しており、学科の授業を勉強していれば自然とこれらの知識が身に付き、あとは基礎能力試験の対策に取組めば良いため、3年生の後期以降から試験勉強を開始し、5、6月の試験に臨むという短期スケジュールでも合格が可能となっています。



## ●アカウミガメの上がる海岸での清掃ボランティア活動をしました。

2013年9月28日に農学部ボランティア支援室で企画した海岸清掃ボランティアを、Wila(野生動物研究会 wildlife association)、NPO法人宮崎野生動物研究会、そして青島中学校の生徒に協力頂き、宮崎市の木崎浜海岸において約20名で実施しました。本学からは、7名の学生ボランティアとWila所属学生4名が参加し、2時間で70Lゴミ袋15袋以上のゴミを回収しました。多くのゴミが散在し、中には海外からの漂着ゴミもありました。こうしたゴミの漂着原因や、アカウミガメの上がる海岸における清掃活動の必要性を、宮崎野生動物研究会及びWilaの方々から説明して頂き、清掃活動を通して環境保全についても学ぶことができました。

